

第3回開校準備部会においては、平成28年3月8日に行われました第2回開校準備部会での議論を踏まえ、市場小学校第二方面校を、学年により分離し、市場小学校の分校とする「分校案」について議論しました。

◆ 第3回開校準備部会での決定事項など ◆

- 事務局から提示された、通学区域案と分校案について、各団体に持ち帰り、意見を伺うこととする。
- 次回の部会については、各所属団体の意見をもとに、分校案を採用するかどうかについて、審議する。

1 分校案に関する各種調査について

(1) 他自治体の分校事例調査

他自治体において、規模の大きな分校を運営している小学校を訪問し、調査しました。

| | |
|-------------|---|
| 学校名 | 大阪市立友渕小学校 |
| 所在地 | (本校) 大阪市都島区友渕町 1-3-123 (分校) 大阪市都島区友渕町 1-3-187 ※本校・分校間の距離 約 500m |
| 創立 | 昭和 56 年 |
| 児童数 ・学級数 | (本校：4～6年) 児童数：627人 学級数：17学級 (分校：1～3年) 児童数：781人 学級数：23学級 ※平成27年度 |
| 経緯 | マンション建設により児童数が増加し、本校舎だけでは児童を受入れきれなくなったため、 昭和61年より分校を開設し学校運営を行っている。 |

(2) 関係機関への協議・確認

学校教育法施行規則第42条において、分校の学級数は、「特別の事情のある場合を除き、五学級以下」と定められています。そのため、市場小学校の学級規模において分校案を検討する場合、規則上の「特別の事情」に該当するか関係機関に協議調整しました。

(3) 学識経験者へのヒアリング

分校案を採用した場合の、「授業及び教育面」、「行事及び児童生徒指導」、「地域コミュニティ」、「学校運営面」等における評価と課題を学識経験者に伺いました。

| | 通学区域案（2校体制） | 分校案（1校体制） |
|------------|---|--|
| 授業・教育面 | <ul style="list-style-type: none"> ・適正規模に近づくことにより、授業・教育活動の運営をしやすくなる。 ・学校は学年の連続性が大切で、1～6年生までそれぞれ学年としての意味があり、学校全体の中で機能させることにより子どもは成長する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じて分けるのであれば、4年生までと5・6年生での分け方が望ましい。 ・これまでになかった先進的な学校づくりに期待をした。 ・高学年には教科担任制による指導を中心とした授業運営を行うことができる。 ・校長等幹部教員の意識の変革は必須である。 ・発達心理学的には大きなデメリットは考えられない。 ・6年生が学校全体のリーダーシップを発揮する機会が著しく減少する。 |
| 行事・児童生徒指導面 | <ul style="list-style-type: none"> ・異学年との交流により子どもは育つ面も多く、6学年揃っていたほうが行事や児童指導において望ましい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は、全校挙げて一緒に行う方が望ましく、学校行事の重要性は増す。 ・5・6年生のみでの指導はそれほど困難ではなく、また4年生は本校舎の最高学年となり、早い時期からリーダーシップの育成ができる。 ・本校と分校で情報共有のシステムを確立し、一つの学校という意識で教育活動を行うことが肝要。 |

| | 通学区域案（2校体制） | 分校案（1校体制） |
|-----------|---|--|
| 地域コミュニティ面 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校が2つに分かれることは、地域コミュニティも分かれることになり、2校体制の一番の問題点である。 ・これまで良好な関係や伝統を創ってきた学区全体が分割され、10年後に学区の再編成をするときは、関係を修復することが非常に困難になるだろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の中で、地域の役割とその連携の重要性は増しており、分校制にすることでこれまでの地域との繋がりは活かされる。 ・本校と分校で一つの学校という意識が途絶えないよう、積極的に地域へ広報活動を行うとともに、地域の協力はこれまで以上に必要になる。 ・分校の設置と廃止の変化への対応がスムーズに移行できる。 |
| 学校運営面 | <ul style="list-style-type: none"> ・2校体制であれば、学校運営面に特に問題が生じることはない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理職、教職員の人事配置や4年生から5年生への引継ぎをどのように行うか検討が必要になる。 |

2 市場小学校第二方面校（仮称）を分校と位置づけた場合の特色

- (1) **現市場小を本校舎とし、1～4年生が通学します。第二方面校は分校舎とし、5～6年生が通学します。**
- (2) 小学校課程を成長過程で4年間と2年間に分け、**一部教科担任制や中学校との連携強化など、こどもの発達段階を意識した新しい教育に取り組みます。**
- (3) 学年により校舎が異なるため、縦割り学習や行事、通学路、学校運営については、従来の方法に捉われず、新たな方策を検討していきます。
- (4) 学校規模が超過大規模になるため、学年活動や全校行事については、従来の学校とは違う、独自の方法により実施します。
- (5) 分校制により、地域を分割することなく、市場小を継続できる一方で、(3)や(4)により、**児童への他の小学校とは異なる負担感が生じたり、保護者、地域の皆さまからはこれまで以上のご協力が必要となります。**
- (6) 高学年が分校に通うことにより、通学に関する不安要素を軽減します。
- (7) 20学級程度の分校となる可能性があるため、学校施設については、一般の小学校とほぼ同じ仕様とします。

3 分校制による学校運営の詳細

| | | 特色 | 対応案 |
|------------------|----------|--|--|
| 学 習 環 境 | 児童の指導・教育 | <ul style="list-style-type: none"> ○本校の最高学年である4年生には、早い段階からリーダーシップを育成する。 ○分校の5～6年生には、一部教科担任制など、中学校との連携を意識した専門的な教育や、学校の自治活動への参加、横のつながりを重視したチームによる学年経営を進める。 【一部教科担任制のメリット】 ・複数の教員が児童に関わることにより、よりきめ細やかな指導をすることができる。 ・学年付副担任を配置することにより、より円滑な学年経営を行うことができる。 ・教科担任制の導入により、教科をより深く掘り下げた教育を行うことができる。 ・一人の教員が担当する教科数が減ることにより、準備の時間の効率化が図れるため、子どもと向き合う時間をより多く確保できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日常的な縦割り学習はできないため、行事等によるつながりを重視していく。 ○年間を通してペア学年活動（1～6年生、2～5年生、3～4年生）を実施し、異学年交流を行う。 |
| | 個別支援学級 | ○本校と分校それぞれに設置する。 | ○学習環境が変わることによる負担を生じさせないような対応を検討する。 |
| | クラス替え | ○一学年あたりの児童数が超過大規模となるため、より多くの児童と交流できる反面、顔を知らない同学年生がいるような状況も予想される。 | ○学年を班で分けたクラス替えを検討する。 |
| | 委員会活動 | ○分校では5～6年生が委員会活動を行うが、本校では日常的な委員会活動がない。 | ○本校では、4年生がミニ委員会活動を行う。 |
| | クラブ活動 | ○本校と分校で別々に行う。 | ○月に1回程度、4～6年生がまとまった時間にどちらかの校舎に集まり行うことも検討する。 |
| | 特設クラブ | ○本校と分校で別々に行う。 | |

| | | | |
|-------|----------------|--|---|
| 行事関係 | 入学式・卒業式 | ○一学年の児童数が非常に多くなることから、市場小の体育館では行うことができない。 | ○二部制の実施や別の場所での実施を検討する。また、あわせて他学年の参加方法も検討する。 |
| | 運動会 | ○児童数が非常に多くなることから、全校合同で市場小の敷地で行うことはできない。 ○全校児童数が多いので、 一人一人の参加種目が減る。 | ○ 市場小の敷地以外の場所での実施を検討する。 ○2日間に分けての実施も検討する。 |
| | 学年ごとの行事 | ○修学旅行や社会科見学時の移動手段・受入れ先の確保など、 学年全体での活動が困難になる。 ○係や役割分担が全員に割り当てられず、 一人一人が活躍する機会が少なくなる。 ○行事の中で、 同学年同士で切磋琢磨し、競いあうことができる。 | ○学年を班で分けたいうえでの活動を検討する。 ○係などを細分化し、一人一人に役割を与える。 |
| | 全校集会 | ○日常的に全校児童が集まれる場所を確保することができない。 | ○本校と分校で別々に行い、年に数回程度合同で行う。 |
| 保護者関係 | 授業参観 保護者懇談会 | ○きょうだい関係がある保護者は、本校と分校の両方に行く必要がある。 | ○同日の別時間帯で行う、または別日に行うなど、実施方法を検討する。 |
| | PTA 活動 | ○学校が超過大規模になるため、PTA も超過大規模となり、かつ活動が本校と分校に分かれることから、運営の工夫が必要になる。 | |
| | 緊急時の引取り | ○きょうだい関係がある保護者は、本校と分校の両方に引取りに行く必要がある。 | |
| 教職員関係 | 教職員・人事 | ○ 本校と分校であわせて一人の校長となるほか、学校全体の学級数は、2校の場合よりも少ないため、教員数も少なくなる。 ○教員以外にも、用務員や栄養職員など、一定の職員の配置が必要になる。 | ○非常勤職員などの配置を検討する。 ○テレビ会議の導入や、定期的に本校と分校合同で職員会議を行うなど、教職員間の連携体制をとれるよう工夫を行う。 |
| その他 | 通学路 | ○高学年が第二方面校に通学するため、交通量など通学安全に関する不安要素が軽減される。 ○学年によって通う校舎が異なるため、全学年が揃った集団登校ができない。 | ○本校と分校に通う児童で通学路が錯綜しないようにするため、これまで以上に見守り活動の協力が必要。 |

4 第3回開校準備部会での主な質問や発言 (凡例 ☆：各委員からの発言 ⇒：事務局より説明)

- ☆：基本的には分校案に賛成だが、分校制だと、通学区域で分けるより職員の数が少なくなる。例えば現在高学年に担任が1人のところにその他の職員をつけて全体をみる先生を配置する場合、それは臨時の職員で充当するのか。それともそれに間に合うだけの職員を確保できるということか。
- ☆：5・6年生の校舎に専科教員を配置するという事は、本校舎の1～4年生には、専科教員はいなくて、担任の先生ばかりの授業になるのか。
- ☆：分校制の場合、経験とチャレンジする意識のある先生を配置してもらえるのか。
- ⇒：学年付副担任という、学年全体を見渡す職員を配置するが、現状の専科教員の人数の枠を含めた運用の工夫の中で対応ができると考えている。また、これだけのことをやるとなれば、人事上の配慮の中で、こういう状況、環境を踏まえた配置をしていくことになる。
- ☆：私の所属する団体では、教育の実態というものを必ずしも理解できていないので、トータルでどちらがいいのか判断できないということだ。教育の質が確保できるのか、できないのか。分校にしたほうが、教育の質が高まるのかどうか。学校教育のプロにぜひともお聞きしたい。
- ☆：教育環境、質という点では、今までと同じようなことをするのであれば、別々の2校に分けたほうが学級数も増え、それだけ手当てが入るので子ども達にかえす環境はいいだろう。ただ、市場は学校だけで子ども達を育てているのではなく、地域が子ども達を見て、小中の9年間で子どもを育てていこうという取り組みもしている。地域のつながりも考えて、分校での取り組みをすることに関して、人的環境を少しでも増やしてもらえるのであれば、その中で新しいこともやっているとと思う。
- ☆：5・6年生が分かれるというのは、全国的に小中連携が学力の面でつながるような学習というのがある中で、本当にいいことだと思う。頭の柔らかい校長先生を置いて、ぜひ教職員の改革ができるくらいの学校をお願いしたい。
- ☆：方向性が決まればできることは協力して、今まで以上に小学校と中学校の連携を深めてやっていきたいと思っている。ただ、平安小も含めた市場中ブロックなので、市場小でやった運用を平安小でも持ち込んで試してあげるような動きもしないといけない。

(次ページに続く)

☆：中学校の連携強化ということだが、今市場中と小学校といろいろ連携をしながら進めている活動に加えて、なにか連携強化をしていくというイメージがあるのか。

⇒：例えば、中学校の教員が小学校にきて授業を行うというようなやり方があるのではないかと、また現在の市場中ブロックという考えの中では、そういう取り組みが行えるのではないかと考えている。

☆：分校案ということで、そのかたちでみんなが平等になればいいと思っている。

☆：私の所属する地域では、分校の案でやっていきたいという意見を聞いている。やったことがないことをやるわけなので、いろんなことが起きると思うが、そういうことは教育のプロである教育委員会や先生方にお任せして、我々地域は、難しいことがあれば相談いただいて、それに対して協力するのはやぶさかではない。

☆：市場地区の親、育成会、全体のまとまり方は他と違って、結構しっかりとやっているの、ひとつの町内会を分けるのではなく、分校にして学年で分けてもらいたい。さらに、できれば6年生はこの市場小で卒業させてやりたいので、4・5年生が分校で、6年生は本校がいい。

☆：入学式と卒業式については、二部制にすれば問題はクリアできるだろう。運動会については、校舎が分かれているから単純に本校と分校で別々に行くというのではなく、6年生までのつながりをもたせるような運営をどのようにやっていくかが課題だと思う。運営に関しては、プロである教員が指導すればできると思うが、観覧場所についてクリアするためには、市場小ではできないので、市場中を借りてというかたちで行うことも考えている。日常的な1～6年生までの関わりが厳しくなる分、年にいくつかの大きい行事では交流させたいと考えている。

⇒：中学校とのつながりの部分、一部教科担任制や授業展開等を考えると、中一ギャップの解消というような点も含めて、5・6年生が分校のほうが、教育的効果が高いと考えている。また、分校制であれば、校舎や卒業式の場所がどこであれ、市場小の卒業生という部分については変わらない。

☆：市場小の分校はそんなにすばらしい分校になるのか。先進的なことが10年間でできるのか。非常に懐疑的だ。学校が2つに分かれたからといって地域が分断されるとか、市場地区の地域の団結はそんなにヤワではない。分校ありきではなく、なぜ1年生から6年生までが一緒に学び舎で教育をやるべきなのか、その意味をもう少しそれぞれで考えて欲しい。

☆：特別な事情とは何なのか、横浜市が判断するとしても、何らかのかたちで明示する必要があると思う。

☆：どこかで決を取らないといけない中で、それはいつやるのか。

⇒：規則における特別な事情というのは、設置者、横浜市の判断によるところで、関係機関にも確認したうえで、問題ないと考えているが、整理して次回お答えする。

本部会の検討内容として、まず通学区域をどうするのか、1つの市場小の区域で分校というかたちにするか、別々の2つの学校に分けるというかたちか、どちらの制度をとるのかということが、最初に決める内容になる。教育委員会としては、かなり研究をしたうえで、今回の説明内容を出しているの、これ以上のものを示すのはなかなか難しいと考えている。次回、団体の代表として明確に意志を出していただき、分校にするかしないかというところを決めていただきたいと思います。

5 開校準備部会に寄せられた主な意見

- (1) 学校名は、地元の名前がついた学校名にしてあげてほしい。
- (2) 開校10年後の推計を見直し、建設予定地について、再検討してほしい。

◆第4回開校準備部会について

日 時：平成28年7月21日(木) 19時から
会 場：市場小学校 図工室
検討内容：通学区域案と分校案について



◆傍聴について

定 員：5名(定員を超えた場合は、抽選となります。)
受 付：部会開始の30分前から10分前(18時30分～18時50分)まで、傍聴者の受付を行います。
傍聴を希望される方は、直接会場にお越しください。

◆市場小学校第二方面校開校準備部会の経過等について

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからもご覧になれます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/kadaikibo/ichibadai2.html>

※横浜市教育委員会ホームページのトップページ上「トピックス」からも、上記URLのページに入ることができます。

◆事務局(お問い合わせ先)

広く皆さまからのご意見やご質問を受け付けております。EメールまたはFAXにてお願いいたします。
横浜市教育委員会事務局学校計画課

Eメール：ky-ichibadai2@city.yokohama.jp

F A X：045-651-1417

T E L：045-671-3252

